

四極会 寄附講義「会社研究」令和3年度 第6回目

令和3年5月26日(水) 13時10分

講師 日出町長 本田 博文 氏

テーマ 「感染症流行時における行政の役割」

第6回 本田博文先生 日出町 町長



<https://www.town.hiji.lg.jp/page/chouchoushitsu.html>

ご経歴

1953年生まれ。1972年大分県立大分工業高等学校卒業後、富士通株式会社に入社。1975年に大分大学経済学部入学、1980年に同学部経済学科卒業後、同年、大分県庁に入庁。その後、税務課長、県税事務所長を最後に2013年に大分県庁を退職。公益財団法人大分県奨学会常務理事を経て、2016年から日出町町長に就任、現在に至る。

県内における新規の新型コロナ感染者数は連日二桁台と、一向に終息の気配が見えない中、今回もオンライン講義となりました。

今回の講義は、まさにこの感染症対策に取り組んでいる自治体のトップのお話です。

概要は次のとおりです。

1 新型コロナウイルス感染症について

- 昨年の4月14日から17日にかけて日本経済新聞に連載された「100年前の“スペイン”インフルエンザから学ぶ」という新聞記事がある。スペイン風邪とも呼ばれたこの感染症は、日本の大正時代（1918-20）に世界的に流行した感染症（パンデミック）であり、日本でも約39万人の方がなくなっている。

昨年の4月頃は、新型コロナに関する情報が不足しており、この記事を読みながら、これからのことを考えた。

- 日出町新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、感染拡大状況を注視しながら、町民に対する新しい生活様式の啓発、小・中学校の臨時休校、公共施設の利用制限、行事・イベントの取扱等様々な分野から感染症対策に取り組んできた。

昨年2月28日の第1回開催から今年14日で第22回の本部会議を開催するに至っている。

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策と併せ、地域経済の下支えをするため、中小企業者に対する家賃・光熱水費補助や利子補給、感染症の影響によって売上高が減少している農林漁業者に対し資材経費等を補助するなど、様々な緊急経済対策を実施している。
- ワクチン接種については、新型コロナウイルスワクチン接種対策室を設置し、医師・看護師等の医療従事者の確保や会場の確保、接種券の発行などに取り組んでいる。85歳以上の方から接種券発送を開始し、85歳未満の方も年齢階層ごとに順次発送しており、今年14日から接種を開始した。7月中には国の方針どおり高齢者までの接種を終了させる予定である。

詳細は、「日出町新型コロナウイルスに関する情報」参照
<https://www.town.hiji.lg.jp/covid19/index.html>



2 私が思う行政の仕事のやりがいについて

- 広い視野を持って仕事ができる。
- 社会に役立つことができる。
- 社会のあるべき方向をデザインしてそれに向かって仕事ができる。
- 今回のコロナのように社会の困難時にも役に立つことができる。

公務員離れが最近みられるが、やりがいのある分野であり、学生の皆さん方にぜひ行政の仕事に就くことをお勧めしたい。

3 質疑応答について

- 日出町のアフターコロナについて

日出町は比較的若い世代が多く、活力がありいきいきとしている。

こうした方々が住んで喜びを感じるまちづくりを目指し、様々な施策に取り組んでいきたい。

- 長引くコロナ感染について

お願いベースの自粛では効力がなく、なかなか終息しない。公権力の規制により早く終わるのではとの声がある。

行政に協力的な日本人の特性を考慮すれば公権力の規制はなじまない。

今のやり方が生ぬるいという声があるのはよく知っており、行政としては悩ましい面がある。町民の方はかなり協力的であると考えており、今のやり方でうまくいっているのではないかと感じている。

- 日出町長になったきっかけ

県において仕事をするなかでいろいろな経験をしてきた。県を退職するときもまだまだ働けると感じており、今までの知識や経験、人とのつながりを踏まえ、自分の地元で、町長としてまちづくりをやってみようと思った。

- 公務員の仕事のオンライン化について

自治体の仕事は、直接住民と接する仕事が多い。自治体の仕事をリモート部分で切り分けることは困難であるため、リモート化は難しいのではと考えている。

以上